

弥生時代史にみる東アジアとの交流

松本岩雄

1. 弥生時代とは

＜弥生時代の始まりと終焉＞

- ・灌漑水田稲作の導入を弥生時代の開始とみる
- ・定型的な前方後円墳（竪穴式石槨・割竹形木棺・三角縁神獣鏡・鉄製品）の出現を古墳時代の始まり＝広域にわたる首長同士の政治的な大連合が成立した社会とみる
- ＊食料獲得方法の違いによる区分、墳墓からみた社会組織や政治構造の相違による区分

＜年代について＞

2. 中国の文献にみる日本列島

- ・『漢書』地理志——小国の分立
- ・『後漢書』東夷伝——倭の奴国
- ・『三国志』魏書 東夷伝倭人条

3. 山陰における弥生時代研究

- ・『新修 島根県史』昭和43（1968）年
- ・村上勇・川原和人「出雲原山遺跡の再検討」『島根県立博物館調査報告』第2冊 1979年
- ＊朝鮮無文土器の存在を指摘、 磨製石剣

4. 東アジアと弥生社会

■土器から見た人々の交流

＜韓国の土器＞・孔列文土器 ・松菊里式土器 ・水石里式土器（円形粘土帯土器）

・勒島式土器（三角形粘土帯土器） ・三韓土器（瓦質） ・三国土器（陶質）

＜楽浪の土器＞・鹿島沖、山持

＜九州・山陽・近畿の土器＞

■大陸の文物

・硯 ・貸泉 ・三稜鏃 ・水銀朱 ・ガラス

■鉄器をめぐる交流

＊他地域とは一線を画する特色ある鉄器文化圏を形成

＊在地での鉄器生産——上野Ⅱ遺跡、柳遺跡

■その他関連資料

- ・骨卜の習俗 ・鳥形木製品 ・土笛
- ・墓制（人骨——著しい高顔性（面長）や扁平な顔立ち、高身長など…「渡来系」弥生人）

5. 弥生時代の国際関係——人々の移動・移住と交易——

- ・船団の絵（青谷上寺地遺跡）…漁民（海人）集団の活躍
- ・権（ケン・おもり・分銅——古八幡・青谷上寺地遺跡）
- ・玉作りと交易（福岡県 閩地頭給遺跡）

『漢書』地理志

【解説】これは紀元前後の倭の状態が、確実な文献に最初にみえるものとして、有名な史料。この記事の出典である「漢書」は、班固が後漢の明帝の永平初年（元）から建初年中（六十）に撰したものである。その「地理志」に記すところは前一世紀ころの事実を伝えるものといわれている。

【史料】楽浪海中に倭人あり、分れて百余国となる。歳時を以て来り献見すという。

（岩波文庫 魏志倭人伝 九ページ）

『後漢書』東夷伝

【解説】小国の一つ、倭の奴国の王が、後漢の都、洛陽に大夫と称する吏僚を送ったり、奴隷を献上していたことを示す。倭ではこの奴国にみることく、国王―大夫―奴隷の階級分化をみる政治社会にまで成長していた。この史料に関係あるものとして、一七八四（天明四年）、博多湾の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印は、ここにみえる事実を裏づけるものである。「後漢書」は後漢の正史で、范曄の撰。倭に関する記事は、「三国志魏志」の記事によるところが多い。

【史料】建武中元二年、倭の奴国、奉貢朝賀す。使人自大夫と称す。倭国の極南界なり。光武賜うに印綬をもつてす。

④に印綬をもつてす。安帝の永初元年、倭の国王帥升等、生口百六十人を献じ、請見を願う。二

（岩波文庫 魏志倭人伝 五ページ）



印文は「漢の委（倭）の奴の国王」とよまれ、2.3センチ四方のもの。

- ① 建武中元二年 西紀五十七年。大夫 漢代では論議をつかさどる官のこと、一般に大臣をいう。
- ② 印綬 解説にいう金印と官職のしるしとして帯びるくみひも。
- ③ 安帝の永初元年 西紀一〇七年。生口 諸説があるが、奴隷のことと考えられる。

『三国志』魏書 東夷伝倭人条

【解説】三世紀にはいつて、中国で魏・呉・蜀の三国対立抗争をみたころ、倭は北朝鮮西部を支配した魏と通交していた。これまで百余国が分立していた部落国家は、この期になると三〇ほどの国にくだいに統一されてきたこと、それらの国々の間に、邪馬台国という統一国家らしいものが生まれかけていたことなどが知られる。その国の女王卑弥呼は、親魏倭王の称号を与えられ、そのほか、この国の習俗や社会状態が知られる。卑弥呼は二四三年、二四七年にも遣使し、魏からも二四〇年、二四五年使者が送られた。「魏志」は三世紀後半ころ、晋の陳寿の撰になる。

【史料】倭人は帯方の東南大海の中にあり、山島によりて国邑をなす。旧百余国。漢の時朝見する者あり、今、使駅通ずる所三十国。郡より倭に至るには海岸に循つて水行し、韓国をへて、

- ① 帯方 三世紀初めに楽浪の南方に設置された郡名。
- ② 使駅通ず 倭の三〇国が魏に使節を送っていた。

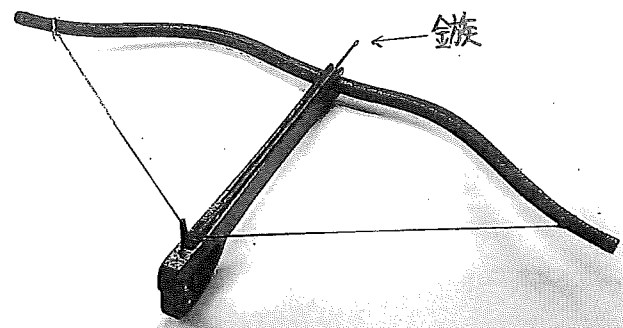


図19 楽舞復元模型

以上を要約するならば、弥生式時代の西部山陰の方面は、早い時期においては北九州との密接な関連が認められるが、中期以降は畿内瀬戸内とより密接な関連のもとにあり、畿内方面に政治的勢力が現われた場合、それと結ぶ素地を強くもっていたと考え得るのである。あるいは三世紀のころにはすでにそうした関係をもつにいたっていたかもしれない。神話古伝を通して想像される出雲の地方は、早く特異の文化ないし勢力をもつ地域として存在したかの印象を与えるかもしれないが、事実の示すところはそれとは大いに異なっている。日本海を通じて海外先進文化との直接交渉ということも、事実においては想像されるような証跡を示さないのである。

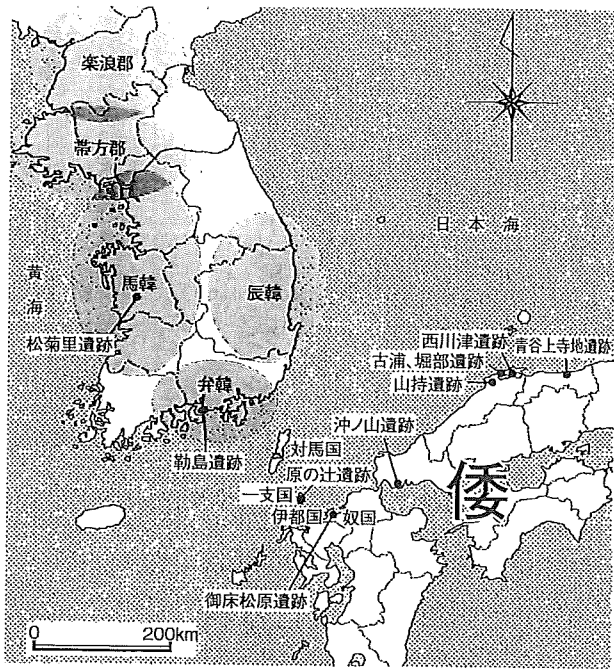


図3-14 弥生時代の山陰・九州と朝鮮半島

弥生時代の時期区分と年代

暦年代	時期区分	松江市域の遺跡	できごと	中国王朝		
紀元前	縄文晩期	・西川津遺跡 ・古浦砂丘遺跡 ・北講武氏元遺跡 ・堀部第1遺跡 ・佐太前遺跡 ・寺床遺跡 ・磯近遺跡 ・布田遺跡 ・田和山遺跡 ・友田遺跡 ・三成墳墓群 ・志谷奥遺跡 ・田中谷遺跡 ・清水谷2号墓 ・野津原Ⅱ遺跡 ・的場遺跡 ・平所遺跡 ・上野Ⅱ遺跡 ・南講武草田遺跡 ・間内越墳墓群	・BC494 越の滅亡	中国王朝 春秋 —403—		
			弥生前期	・BC312~279 燕の東方進出	戦国	
				中葉		
				後葉		
	弥生中期		前葉	・BC221 秦の始皇帝が中国を統一	—221— 秦	
			中葉	・BC202 漢高祖劉邦、帝位につく	—202— 前漢	
				後葉		・BC108 前漢武帝、朝鮮半島に楽浪・真番・臨屯・玄菟の四郡設置
	紀元後		弥生後期	前葉	・AD8 新がおこり、前漢滅ぶ	—8— 新
				中葉	・AD57 倭の奴国王、後漢に朝貢し、印綬を受ける	—25— 後漢
			後葉	・AD107 倭国王師升、後漢に生口160人を献ずる		
古墳前期		末葉	・この頃、倭国乱	—220— 三国		
			・AD239 女王卑弥呼、帯方郡に使いを遣わし、魏明帝に朝貢を求める			

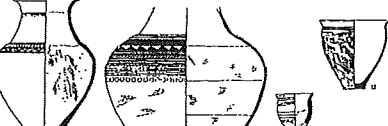
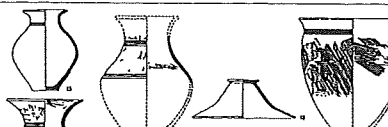
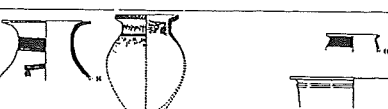
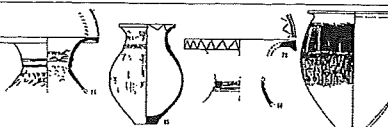
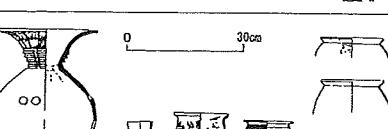
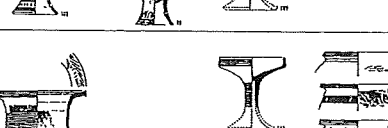
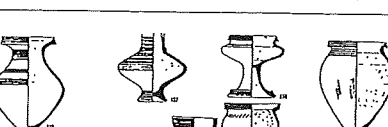
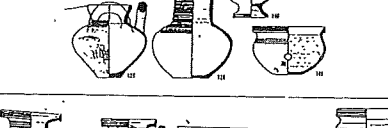
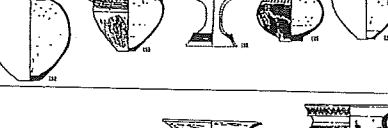
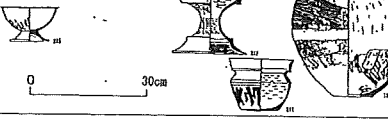
前期	I 1 様式		半田遺跡イセ地区 坂部遺跡 九郎原遺跡
	I 2 様式		野石遺跡 I 区 7 号、II 区 3 号 II 区 6 号、II 区 7 号 II 区 9 号、III 区 4 号 土壌
	I 3 様式		浜田市野石遺跡 II 区 4 号、II 区 5 号 II 区 14 号、II 区 23 号 坂部遺跡 安富遺跡
中期	II 1 様式		堀部上遺跡
	III 1 様式		坂部遺跡
	III 2 様式		波来浜 A-2 号墓 前立山遺跡
	IV 1 様式		波来浜遺跡
後期	IV 2 様式		波来浜遺跡
	V 1 様式		波来浜 B-1 号墓 順庵原 1 号墓
	V 2 様式		波来浜 B-3 号墓 順庵原 1 号墓
	V 3 様式		中山墳墓群 S X-01
	V 4 様式		中山墳墓群 S D-04、S X-12

図2 石見の弥生土器編年図
(松本岩雄「石見」『弥生土器の様式と編年—山陽・山陰編』1992より作成)

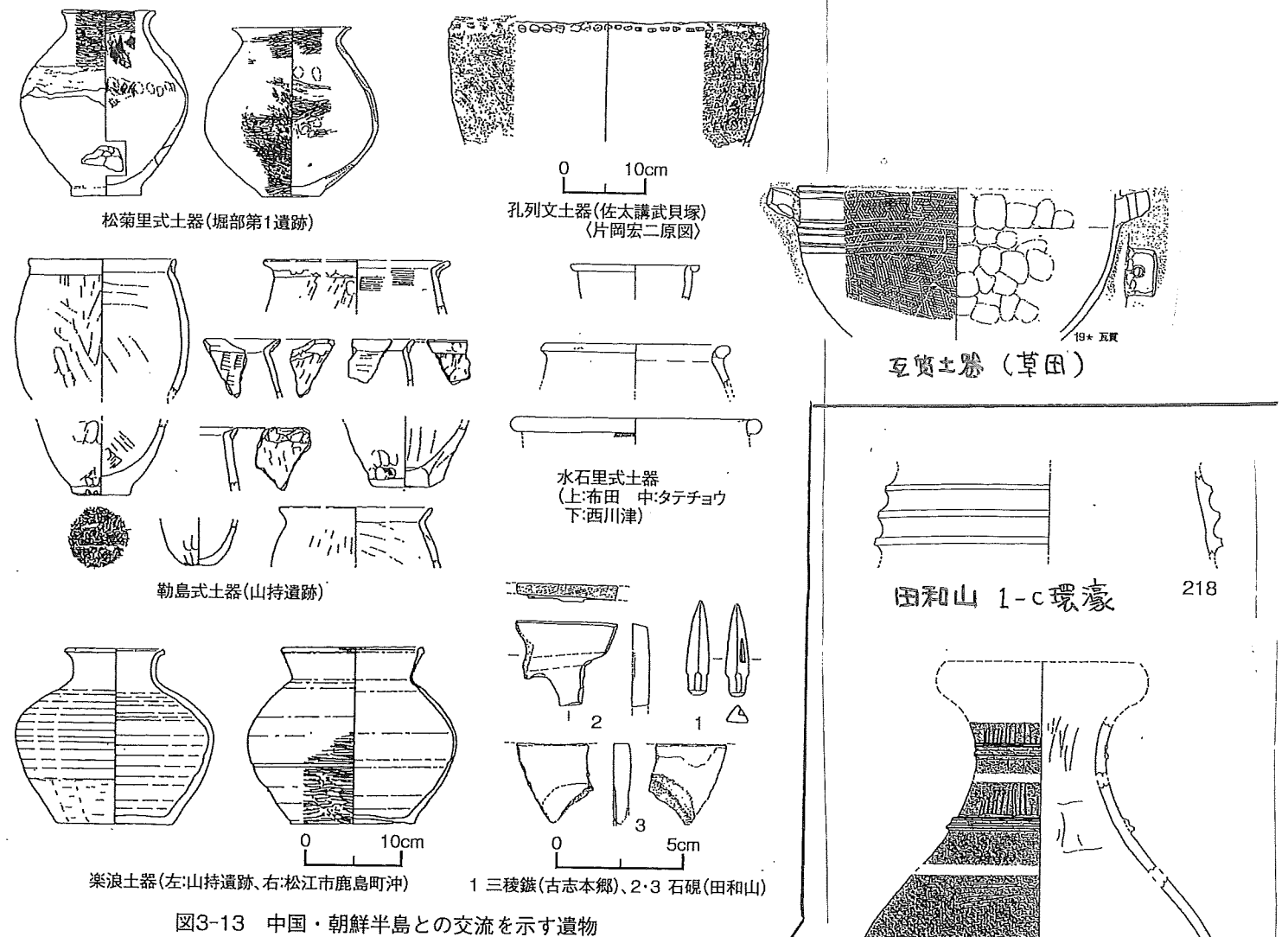
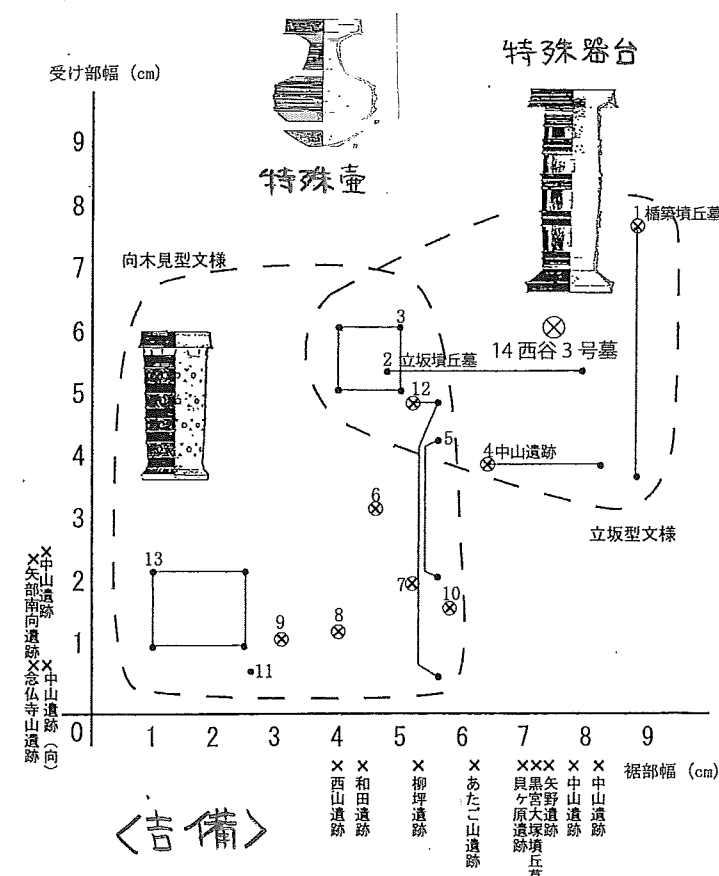
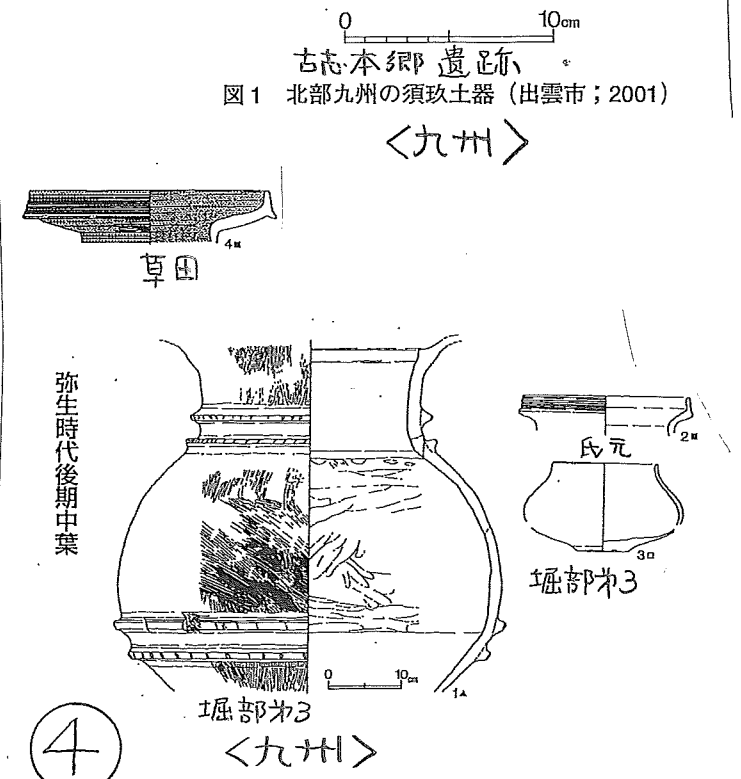


図3-13 中国・朝鮮半島との交流を示す遺物

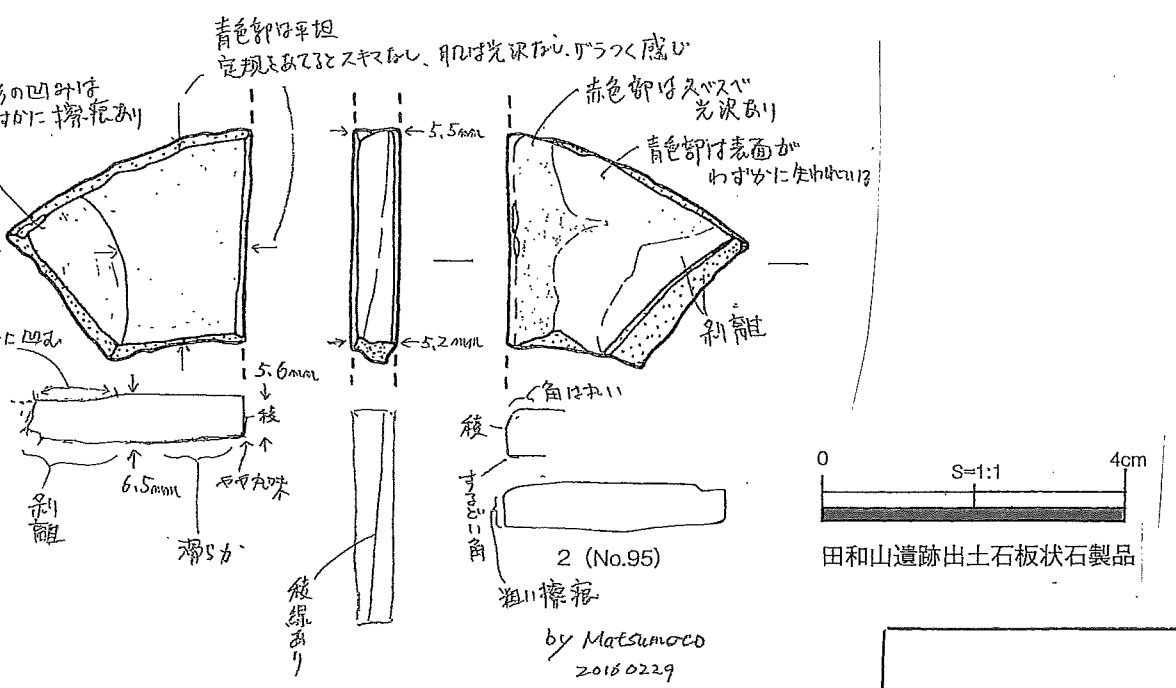
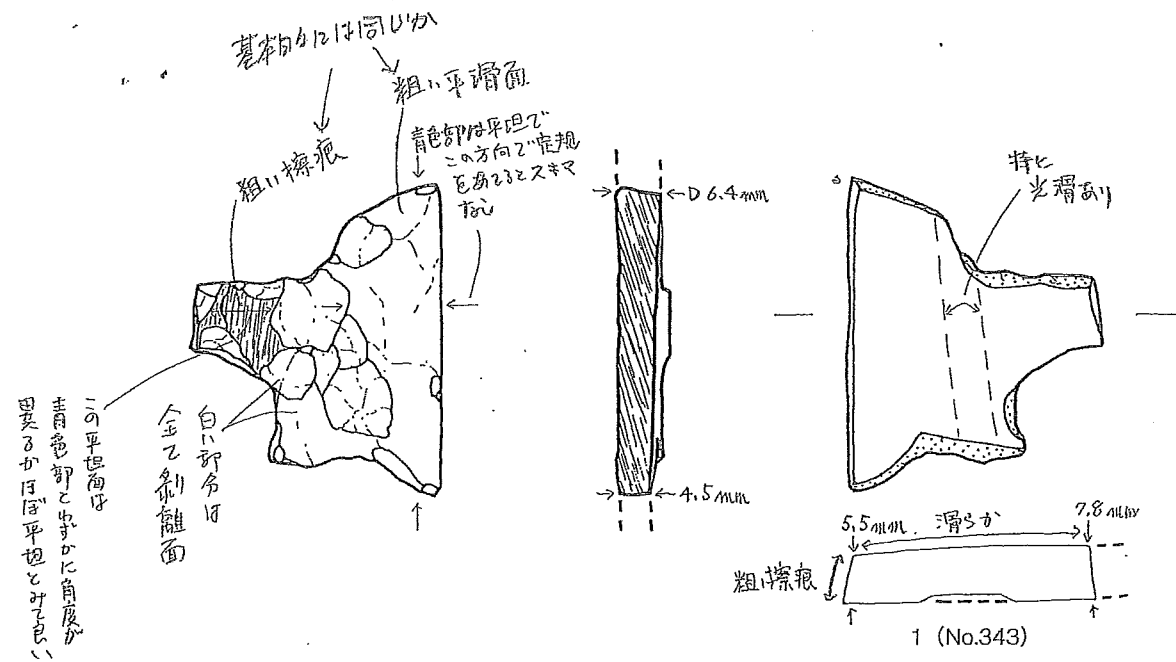


第136図 特殊器台の形態と文様からみた分類 (北井 2009 を一部改編)



3

4



田和山遺跡出土石板状石製品

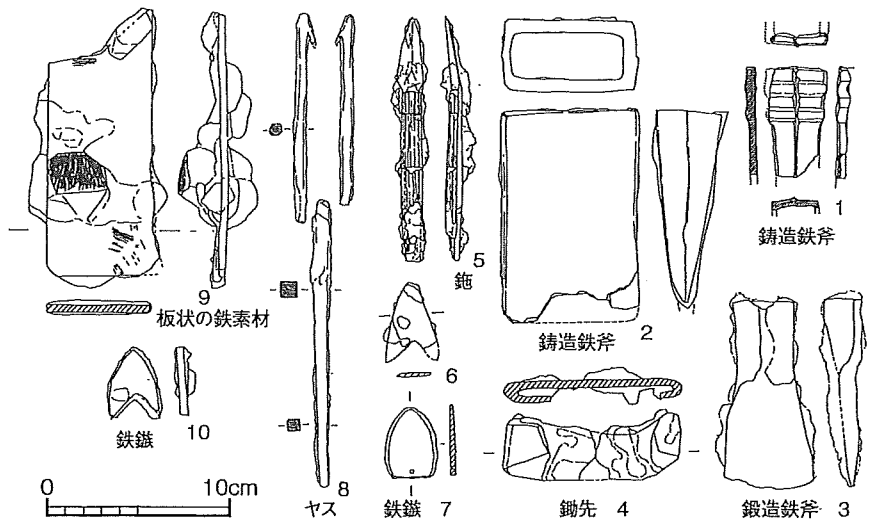


図3-17 弥生時代の鉄製品と鉄素材(1. 西川津、2・7. 中野清水、3. 田和山、4・9・10. 上野Ⅱ、5. 勝負奥、6. 森Ⅵ、8. 南講武草田)

5

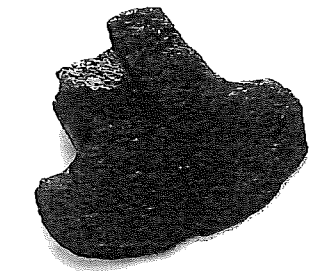


写真4 朝鮮半島で作られた鉄斧(有肩鉄斧)

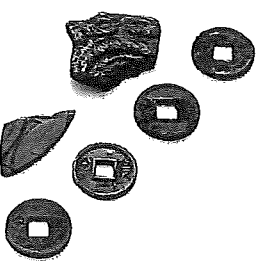
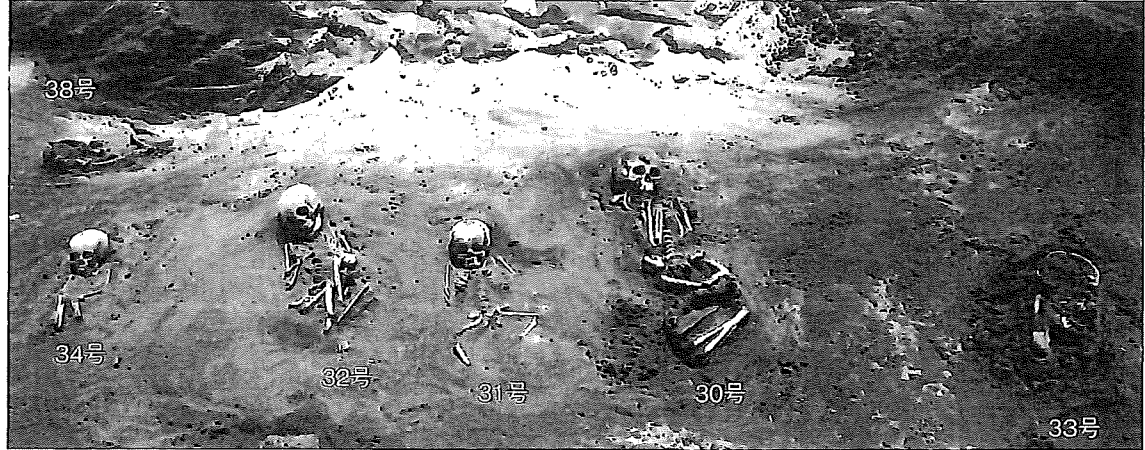


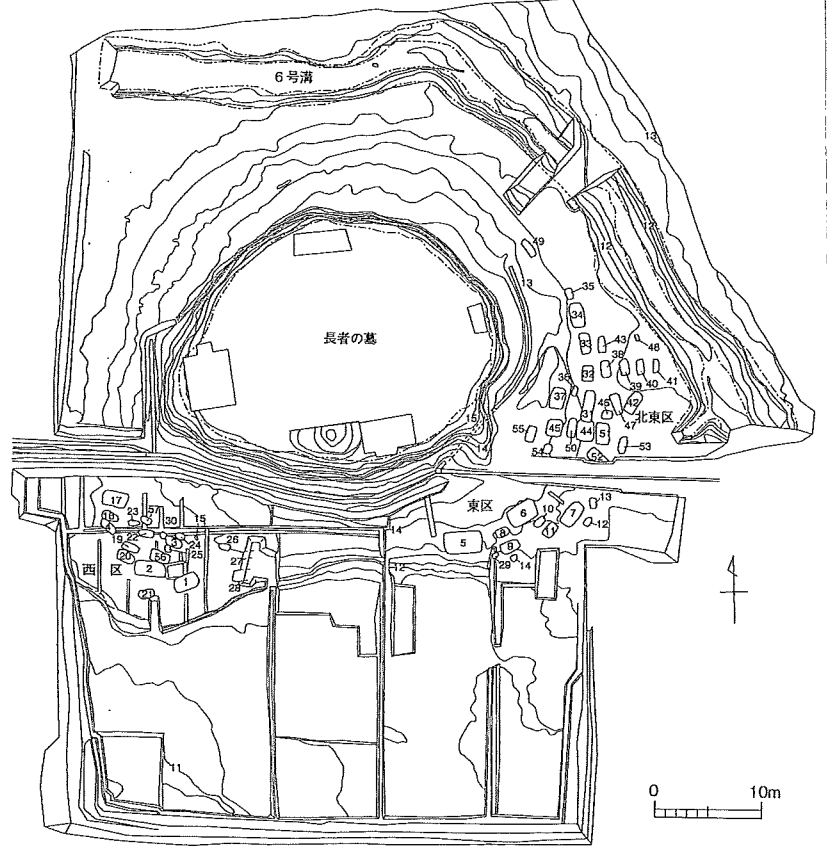
写真5 中国製の鏡(内行花文鏡・八禽鏡)と貨幣(貨泉)

青谷上寺地

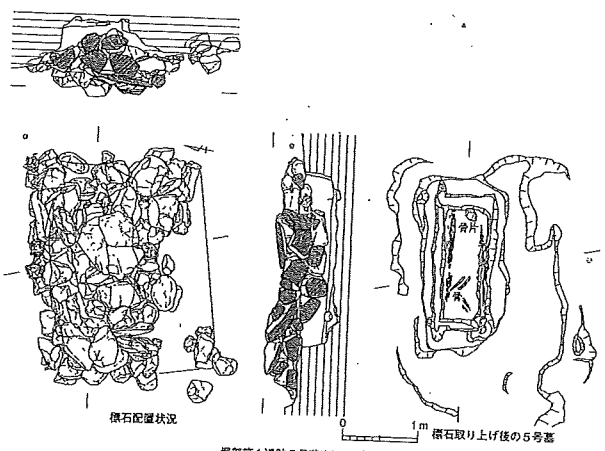


1963年調査時

古瀬砂丘遺跡

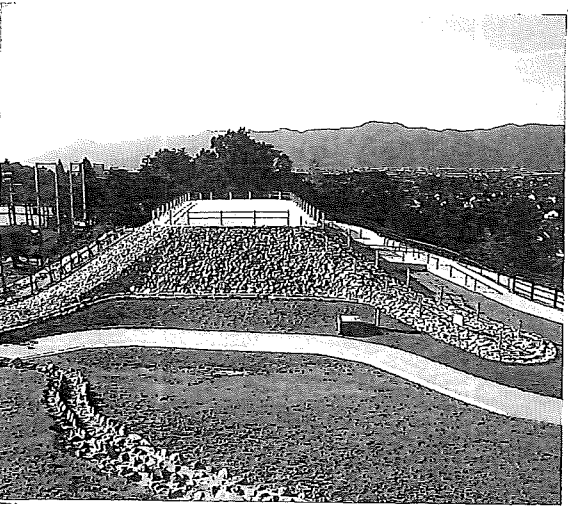


堀部第1遺跡遺構配置実測図 (S=1:500)

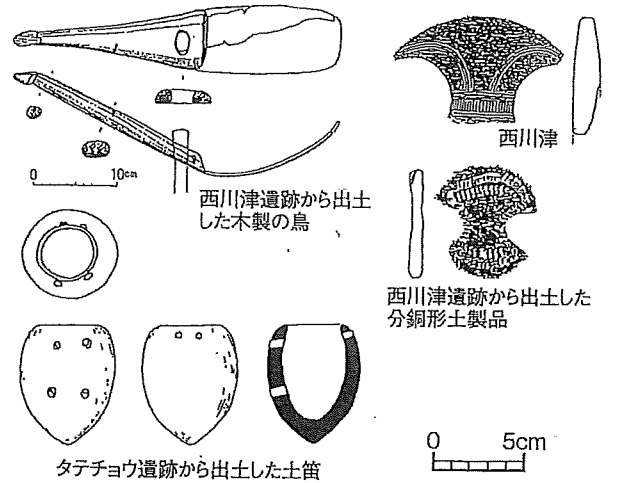


堀部第1遺跡5号墓実測図 (S=1:50)

堀部第1遺跡



西谷2号墓 復元(四隅突出墓)



弥生時代の祭祀に使われた道具

6

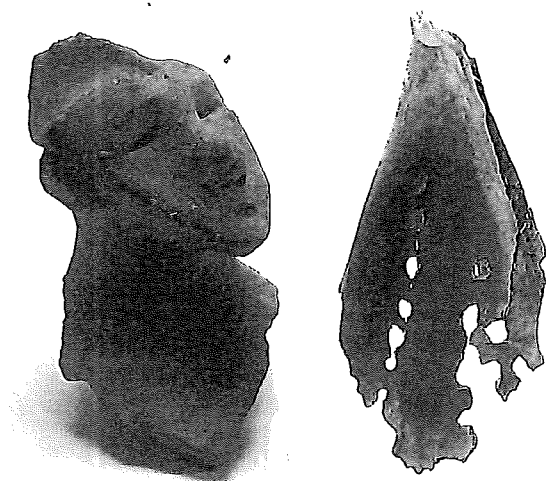


写真3-4 西川津遺跡から出土した人面付土器とト骨

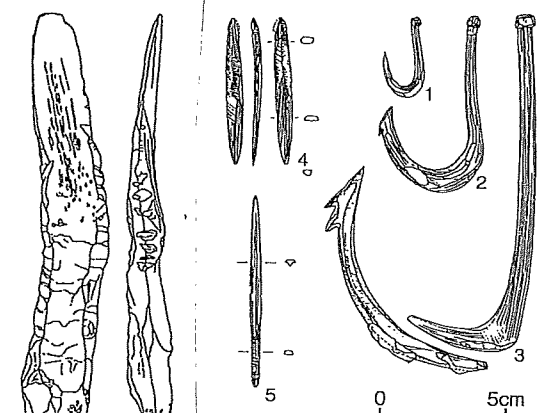


図3-3 西川津遺跡から出土した骨角製の漁具（1・2. 単式釣針、3. 結合式釣針、4. 鹿角製ヤス、5. エイの刺尾製ヤス）

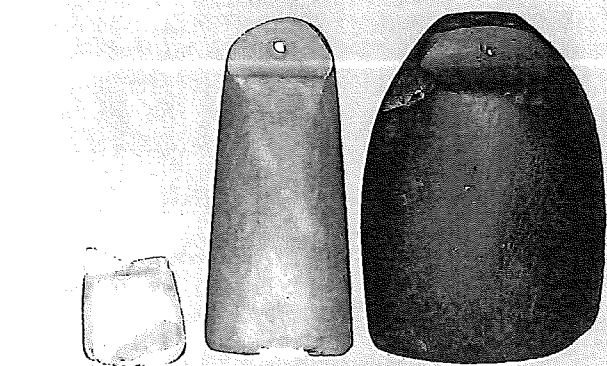
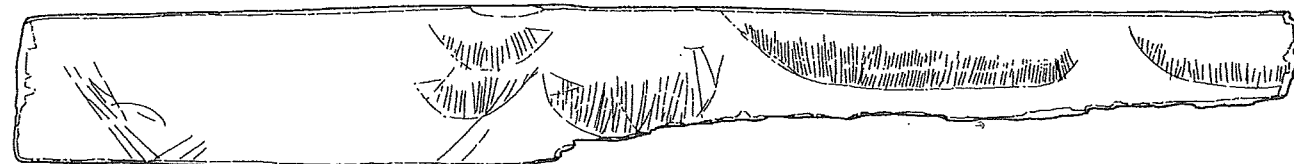


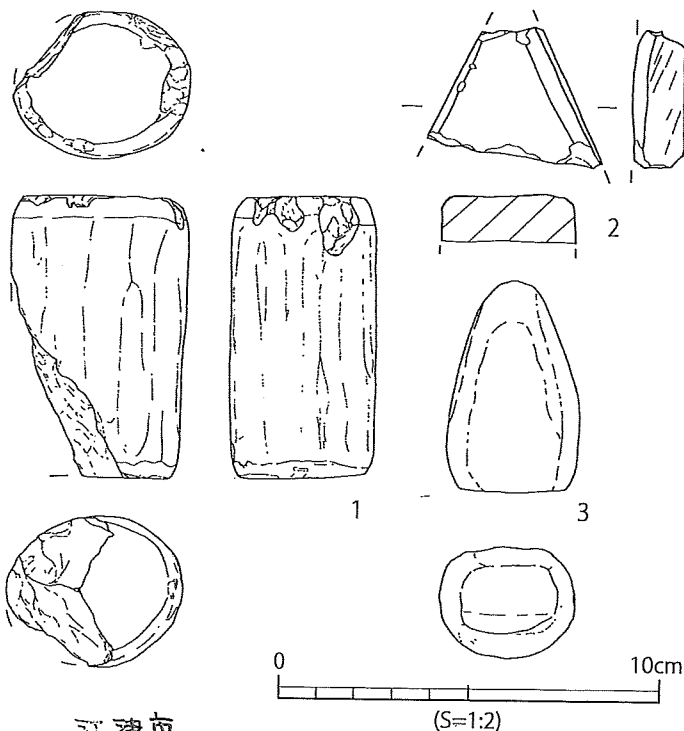
写真61 銅鐸形石製品（石権？）（右端：高さ6.1cm） 青谷上寺地



7 写真60 船団を描いた板（長さ73.2cm） 青谷上寺地



江津市 図2 古八幡付近遺跡9区弥生時代の遺構



江津市 図3 古八幡付近遺跡環壕出土石製品（報告書掲載図を一部改変）

表3-1 山陰地域出土の朝鮮半島系土器

朝鮮半島の土器	山陰の土器	出雲の遺跡	伯耆の遺跡	因幡の遺跡
前期 可楽里式 (孔列文土器)	縄文晩期	板屋Ⅲ 森	佐太講武 タデチョウ 西川津	
中期 休岩里式 松菊里式	縄文晩期 (弥生早期)		古浦砂丘 タデチョウ 堀部Ⅰ	
後期 水石里式 (円形粘土帯)	弥生前中期	原山 矢野 里方本郷	山持 西川津 タデチョウ 布田	長瀬高浜 目久美 大袋丸山
勤島式	弥生中期	山持 矢野	《楽》山持	青谷上寺地
三韓土器 前期後期	弥生後期	古志本郷 《楽》鹿島沖	南講武草田 タデチョウ	
三國土器 京新羅土器 加耶土器 京百濟土器	土師器 (古墳時代)	青木 山持 中野清水 上長浜	佐太前	

(楽)楽浪土器

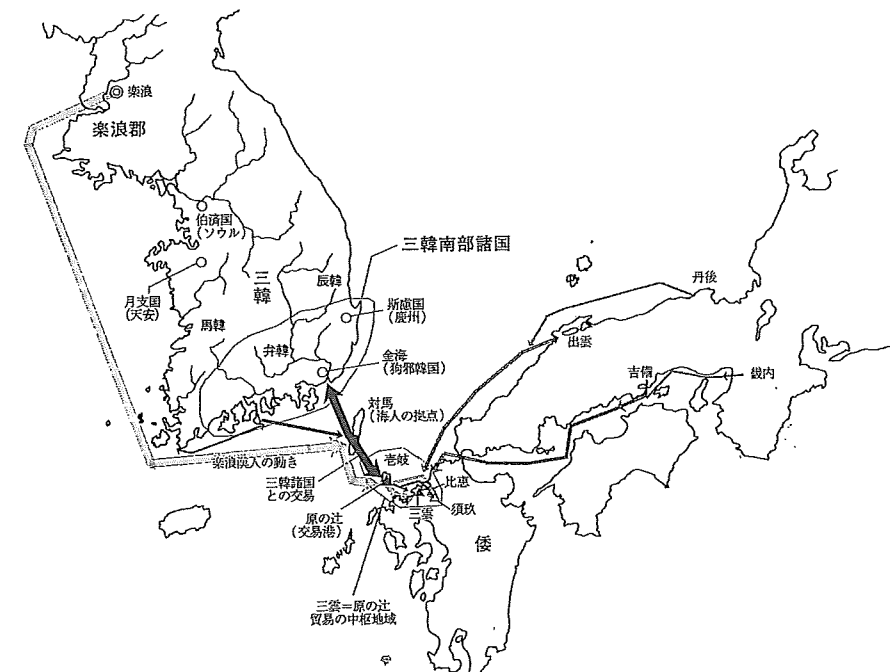
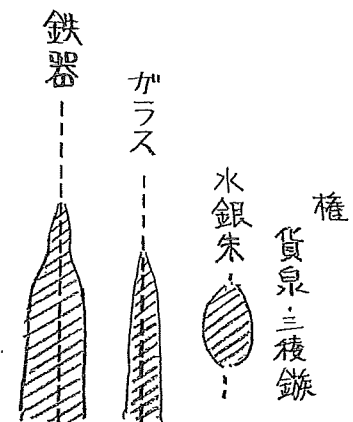


図1 「原の辻＝三雲貿易」段階（弥生時代後期～終末期古相＝ⅠA期併行まで）

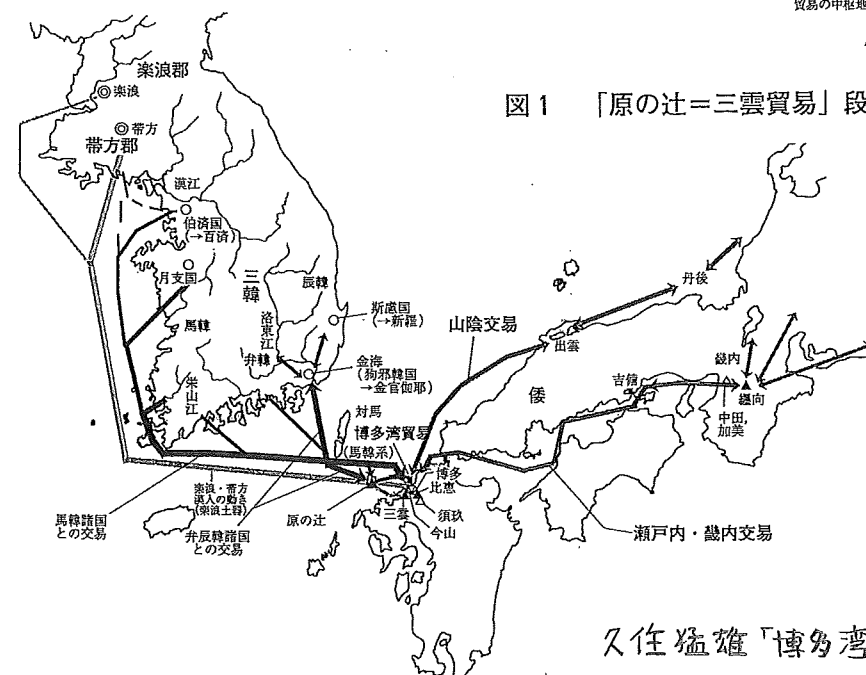


図9 「原の辻＝三雲貿易」から「博多湾貿易」（前期）への移行（ⅠB期～ⅡA期）

久住猛雄「博多湾貿易の成立と解体」『考古学研究』53-4 2007年より